

平成 30 年度 学校評価報告書 (目標設定)・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めることを目指した不断の授業改善の実施等、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教科指導の在り方について教科全体で研究・実践する。また、そのために必要な教員研修の充実を図る。 ○KSC(スタートキャンプ)の意義を再確認し、それを体現できるプログラムを作成する。 ○理数教育推進校としての取組をさらに推進する。 ○国際理解教育をさらに推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科会の開催など、教科内での情報・意見交換の機会を増やす。 ○公開研究授業・研究協議会、授業づくり研修会等教員研修が、各教科の授業改善の取組の機会となるようなテーマ設定や運営を行う。 ○これからの高校生活の基礎となる、課題の発見、主体的な判断・行動、よりよい課題の解決を体現するプログラムを作成し実践する。 ○課題研究活動を円滑に推進するためにハード面、ソフト面の整備を行う。 ○科学オリンピック等外部発表会への生徒の積極的参加を促進する。 ○年間を通じた国際交流活動推進のための組織づくりとプログラム開発を行う。 ○英語ディベート大会やスピーチコンテスト等への生徒の積極的参加を促進することで生徒の英語スピーキング力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科会等情報交換の機会が増えたか。(教科会等の回数) ○教科全体で授業改善が行われているか。(職員アンケート) ○KSCの内容が目標に対して効果的だったか。(生徒及び職員アンケート) ○研究活動及び成果発表が円滑に行われたか。(発表内容、アンケート) ○各種大会への参加が増えたか。(参加した大会数と参加人数) ○国際理解教育推進のための組織ができ国際交流が図られたか。(状況分析) ○各種大会への参加が増えたか。(参加した大会数と参加人数) ○各種検定の成績 					
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○「礼節・信義・根性」という校訓、「文武両道・切磋琢磨」というモットー、県相8Cを基盤とした教育活動の展開による、豊かな人間性や社会性の涵養、社会とのつながりを意識し責任を持って関わろうとする人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間性や社会性を育むため、部活動に留まらず、行事、委員会活動に生徒自身が主体的にかかわるための支援を行う。 ○教育相談体制を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種行事の企画・運営から実施まで、生徒が主体的に行うことを支援し、生徒が「私たちの行事」であることを認識して、生徒一人ひとりが積極的に参加するよう支援する。 ○教育相談コーディネーターを中心に、学年の教育相談担当、スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)を活用して支援する体制を、生徒・教職員に周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○行事への主体的参加を通じて生徒たちの成長が見られたか。 ○相談をしたいときの窓口が校内・校外にあることを理解しているか。 ○教育相談の各担当の連携が図られ、必要に応じて、SC・SSWと連携し支援ができていたか。 					

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○大学卒業後の進路(生活設計)をも視野に入れた進路設計を行い、課題を整理・解決し、実現に向けて継続的、計画的に努力する力の育成	○第一志望校合格に向けて最後まで粘り強く努力を続ける態度を育成する。難関大学・国公立大学受験者数を増やす。 ○高大連携講座を進化・充実させる。	○進路説明会、総合的な学習の時間、LHR、個別面談等様々な機会を捉えて生徒・保護者へ適切な情報提供や助言を行う。 ○計画的かつ有効的に模擬試験を実施し、結果分析を活かして進路指導を行う。 ○現在の連携大学との連携の強化とプログラムの充実を図る。	○難関大学・国公立大学を受験する生徒数が増えたか。 ○模擬試験等の受験状況と成果の分析結果を進路指導に活かされたか。 ○連携大学との間に新たなプログラムの構築ができたか。					
4	地域等との協働	○地域から期待され信頼される進学校としての、地域のニーズに応える連携した教育活動の推進による、地域社会に責任を持って進んで関わろうとする人間の育成	○地域社会の一員であることを自覚し、地域の行事や団体との連携した活動を行うための情報提供を行い、地域の学校としての役割を果たす。	○地域行事や団体との活動やボランティア活動等の情報を生徒に周知し、部活動、委員会活動を中心に積極的参加を促す。	○地域活動の情報を学校全体で共有できたか。ホームページを活用して生徒の活動状況を地域に発信ができたか。					
5	学校管理 学校運営	○生徒の多様な自主的活動を支える仕組みや、生徒の意見を生かした安全で安心な学習環境の整備 ○事故の未然防止と地域に開かれ、地域と共にある学校づくり推進に資する効果的な広報活動の実践	○「県相を考える委員会」をより効果的に運営する。また、卒業生アンケート結果の有効活用により、学習環境の整備・改善を図る。 ○事故防止の観点から、定期テストの採点を、校内で期限内に行えるよう時間を確保する。 ○いのちを守る防災教育を推進する。 ○学校説明会やホームページ等により開かれた学校づくりに取り組む。	○「県相を考える委員会」を定期的に開催し、学校の課題や解決策等について話し合い、可能なものから実行に移す。 ○卒業生アンケートの結果を教科やグループ等で分析し、教科指導や学校運営に生かす。 ○年間4日、成績処理日を設け、採点時間を確保する。 ○防災訓練等により防災意識の向上と、生徒の「主体的に行動する態度」を育成する。 ○本校の特色や教育理念・授業実践等を適切に伝える学校説明会等を行い、生徒参加型の内容で実施する。	○「県相を考える委員会」が定期的に開催され、課題等について話し合いができたか。(委員会開催回数、討議内容等) ○卒業生アンケートを有効に活用することができたか。(職員アンケート等) ○答案の校外への持ち出しを削減できたか。 ○防災教育の重要性と、生徒の意識が高まる訓練が実施できたか。 ○生徒主体の学校説明会を行うことで、中学生や保護者の本校に対する理解が前年度よりも深まったか。(参加者アンケート等)					

